

| | | | | |
|--|--------------------------------------|---------|--------------|----------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| アロマセラピー aromatherapy | | 2年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 | 2年次 | |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス | |
| 栃木美保 | なし | 特になし | 授業中に指示します | |
| 授業の概要 | | | | |
| アロマセラピーは植物の精油を用いて、身体や精神の恒常性の維持、美と健康を増進する目的がある。自然の香りを楽しみながら植物の特質を深く理解し、心身の健康と地球環境への意識向上を図る。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①植物の精油の理解と安全な精油の使い方を学習し、様々な利用法を身につける事ができるようにする。②アロマセラピーの歴史、環境について学習し、歴史の認識とこれからの環境に対する意識を深める事ができるようにする。③アロマセラピー検定を受験する知識を得る事ができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 精油、歴史、環境等の講義 精油の安全な使い方、芳香浴の方法、トリートメントなどの利用法の実習 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①植物の香りを通して心身のバランス、美と健康への意識の向上を図り、精油の具体的な利用法を学ぶことができる。②植物の特質を学び、環境に対する知識を深めることができる。③アロマセラピー検定を受験する知識を得ることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | 授業内容の説明 香りに親しむ 香りからのイメージ | | | |
| 第2回目 | 香りの楽しみ方 精油扱いの注意 基材について | | | |
| 第3回目 | 精油の基本的事柄 アロマセラピー検定2級対応精油を主に精油プロフィール① | | | |
| 第4回目 | 精油製造法について 精油プロフィール② | | | |
| 第5回目 | 精油の心身への作用について ルームスプレー作り実習 | | | |
| 第6回目 | トリートメントについて トリートメントオイル作り | | | |

| | | |
|---|----------------------------------|----------------------------|
| 第7回目 | トリートメントについて トリートメント実習 | |
| 第8回目 | アロマセラピーの歴史 1 | |
| 第9回目 | アロマセラピーの歴史 2 | |
| 第10回目 | アロマセラピーと環境 バスソルト作り | |
| 第11回目 | アロマセラピーと環境 | |
| 第12回目 | ハーブとハーブティについて | |
| 第13回目 | アロマセラピーに関する法律 資格について | |
| 第14回目 | 学期末試験（アロマセラピー2級検定対応問題を中心に） | |
| 第15回目 | 授業を振り返り、各自の利用法や意識の変化を話し合う 香水の作り方 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| | 評価の領域 | 割合 |
| | | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 30% | 授業に集中し、講義、実習ともに意欲的に取り組む |
| レポート | 20% | 講義内容を把握し、様々な分野での活用を考え記述できる |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | 50% | 講義、実習内容の要点を理解している |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| アロマセラピー検定テキスト2級 授業内容に応じて資料配布 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 目的意識を持ち、積極的に授業に臨むこと。 授業の進行、他者に迷惑になる私語は禁止。 | | |